



総合周産期母子医療センターだより

平成30年4月号

2018年4月13日発行 (No.148)
 山口県立総合医療センター
 〒747-8511 山口県防府市大字大崎 10077 番地
<http://www.ymghp.jp>
 tel:0835-22-4411 (代表)



トピックス

働く妊娠女性への支援



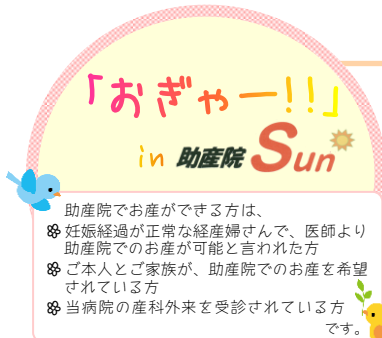
人口が減少して行く中でも国の活力を維持して行くために、「一億総活躍社会」や「女性の活躍推進」という言葉が盛んに使われています。一方、未婚割合の増加や晩婚化・共働きなどに起因する「少子化問題」、望まない妊娠・出産、精神的不安定な状況、育児に対する不安や日常生活ストレス、家庭の経済的困窮と社会的な孤立などを原因とした「児童虐待の増加」が大きな社会問題となっています。女性にもっと働いてもらいたいし、子どもを産み育ててもらいたい。でも、女性は疲れていて、どうしたら良いか判らないという状況かもしれません。

近年、女性のライフスタイルは大きく変わってきました。以前は、20歳代前半で結婚し、専業主婦として2人から3人の子どもを生み育てることが一般的でした。1990年代に専業主婦世帯数と共働き世帯数が逆転し、現在は20歳代後半で結婚し、仕事を続けながら30歳を越えて1人から2人の子どもを持つ女性が多くなりました。このため、「仕事を続けること」と「子どもを持つこと」の間で悩む女性が多くなります。20歳代から30歳代前半は、仕事のキャリア形成・維持のために重要な期間です。一方、この期間は妊娠に適した時期でもあります。35歳を過ぎてくると不妊治療を受けても妊娠することが次第に困難となり、40歳代になると治療をしても子どもを授かる確率は10人に1人未満となります。この相反する問題に直面している働く女性を支援する様々な制度があります。

妊娠は極めて私的なことですが、同時に公的な事態でもあります。母子保健法に、「妊娠した者は、速やかに市町村長に妊娠の届け出をするようにしなければならない」とあります。一方、「市町村は、妊娠を届出た者に対して、母子健康手帳を交付しなければならない」とあり、ここから妊娠している女性に対する支援が始まります。職場は、「妊婦健診を受ける時間を確保する義務」や医師などが指示した場合には「勤務時間の変更や勤務の軽減などの措置を講じる義務」があります(男女雇用機会均等法)。また、「妊産婦の妊娠、出産、哺育等に有害な業務に就かせてはならない」あるいは「産前6週間(多胎は14週間)、産後8週間は就業させてはならない」、「妊娠中の女性が請求した場合においては、他の軽易な業務に転換させなければならない」等が定められています(労働基準法)。育児に関しても、「生後満1年に達しない生児を育てる女性は、1日2回各々少なくとも30分の育児時間を請求することができる」や「子が1歳に達するまでの間、育児休業をすることができる」(労働基準法)、「3歳未満の子を養育する労働者について、①短時間勤務制度、②フレックスタイム制、③始業・終業時間の繰り上げ・繰り下げ、④所定外労働をさせない制度、⑤託児施設の設置運営その他これに準ずる便宜の供与、のいずれかの措置を講じなければならない」(育児・介護休業法)などがあります。

法律や制度は、妊娠しながら仕事を続けている女性を支援しています。ただし、職場の人間関係も大切です。母子手帳をもらったら、時期をみて職場の上司や親しい同僚に妊娠したことを伝えておきましょう。妊娠中や産後は、以前と同じように働けないこともあります。その時のために理解者を職場に作っておくと良いと思います。また、産休に入るギリギリまで仕事の予定を立てていると、切迫早産などで「入院して下さい」あるいは「安静にして下さい」と突然言われた時に、自分も困りますし職場にも大きな迷惑をかけてしまいます。妊娠20週を過ぎたら徐々に仕事をセーブしていくことをお勧めします。硬い話になりましたが、産婦人科医・助産師・保健師、職場の産業医は働く妊娠女性の味方です。困ったことがあったら、ぜひご相談ください。

総合周産期母子医療センター長 佐世 正勝



院内助産院でお産をされたお母さんにお話を伺いました。今号は2月に出産された 晃大くんのお母さんです。

現在の心境をお聞かせ下さい!

よく寝てくれる子なので、日中は比較的穏やかに過ごしています。抱っこしている時に時々微笑んでくれるのが本当に可愛く、癒しになっています。4歳のお姉ちゃんに戸惑いがみられるので、そっちの方が今は大変です。

「助産院で出産しよう!」と思われた理由は?

職場の先輩や友だちが助産院でお産して、「とても良かったから2人目はぜひ!」とすすめてくれたのがきっかけです。

助産院でお産をすることで不安な事はありませんか?

不安なことは全くありませんでした。妊婦健診の時からたくさん相談にものっていただいていたので、信頼できる助産師さんばかりだったので、不安な事はありませんでした。

「いざ、お産!」から過ごされてみてどうでしたか?

陣痛中は、ずっと付き添っていただき腰をさすってもらったり、声をかけてくださったので落ち着いて過ごすことができました。「息を吐く」もしっかりできていたと思います。お産中、「上手よー!」と言ってもらえて嬉しく、本当に良いお産をすることができました。助産師さんの対応に本当に感謝しています。

ご家族の反応はいかがでしたか?

スタッフの方の温かい声かけで、私もリラックスした気持ちで娘を応援できました。感謝の一言です。ありがとうございました。(お母さまより)

「助産院で出産を!」と検討中の皆さんへメッセージをお願いします。

ぜひ助産院でお産を! とてもおすすめです。助産師さんのサポートが心強いです。安心してお産に臨めます。



同日に男の子を出産されたお母さんと『お祝い膳』をいただきました☆



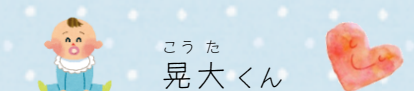
助産院Sunスタッフより

妊娠中から「自分でお産するんだ」という意欲を感じられ、ステキだなと思っていました。大雪の中、遅れないようにと早々健診に来られた日が懐かしいですね。陣痛の合間を上手に力を抜くことができたり、とてもステキであったかーいお産の空間に立ち合わせていただき幸せです♡ お母さんの声かけ、サポート、心強かったですね☆ 2/6生まれの子の親ひなちゃん、こうくんの子育て、応援してます!!



「晃大 こうた」

誰からも愛される明るい子になるように、周りの人を明るく温かくできる優しい子になってほしいという願いを込めています。



こうた 晃大くん 平成30年2月6日生まれ

『我が家のアイドル』

センター稼働状況

分娩数	50件	緊急帝王切開	8件
母体搬送	6件	NICU稼働率	75.0%
新生児搬送	1件	MFICU稼働率	81.7%

(平成30年3月)

『桜からバア!』



編集後記

今年は「筍」が早いと聞き、早速春を探しに出かけてみました。菜の花畑を通り抜け、竹林に到着!目を凝らしてよく見ると、ニョキニョキと顔を出している筍を発見。椿の花やごみ、ユキノシタなどの野草と一緒に天ぷらにして美味しく頂きました。春ですね☆ (C.K☆N.S☆Y.M☆K.H.)



周産期センターキャラクター マミー&メイ

by. お飾り隊